

藤沢厚木線（辻堂工区） 明治地区計画地内住民との意見交換会

◎開催概要

開催日	場所	対象者	参加者数
2024. 3. 14(木) 19:00～20:40	明治市民センター 第1 談話室	藤沢厚木線（辻堂工区）計画地内住民・ 自治会町内会長	計 50 名
2024. 3. 17(日) 10:00～12:50	明治市民センター 第1 談話室	藤沢厚木線（辻堂工区）計画地内住民・ 自治会町内会長	計 44 名

◎主な意見

市民	市
◎道路の計画には反対である。 ◎計画の廃止を求める。 ・先祖代々の土地を守っていきたい。 ・我々は現状で困っていない。土日の渋滞があってもそれを見越して、自転車や徒歩で移動している。便利になるのは市外から藤沢に来る人である。 ・今日の説明はランクアップありきで進めている。市は市民の味方であるはずなので、反対であることを県に伝えてほしい。	・都市計画決定されており、事業化の検討は行うものと考えている。 ・意見は賛否を問わず県へ伝える。 ・ランクアップされることにより、具体的な検討を行うため、より詳しい話ができると考えている。
◎補償についてどのような内容になるのか。 ・道路となるために移転する場合、市外に出るようになるのか。近くに土地がもらえるのか。 ・今のコミュニティを気に入って住んでいる。その価値分の補償費が出るのか。	・全国一律の基準により、間取り、外周の樹木などの要素、減価償却が考慮される。 ・土地は不動産鑑定を行う。
◎他に代替道路はないのか。 ・藤沢厚木線に並行する高山羽鳥線ができているのに、この道路が必要なのか。 ・海老根市長時代、藤沢厚木線の代替道路の検討をしていると聞いたが、しっかり検討しているのか。 ・現在の計画から変更、代替案は無いのか。廃止の方向性も検討してほしい。	・（仮称）南北線は、線路をオーバーするかアンダーするか、事業所の移転などを一通り検討した。道路整備プログラムで優先順位の検討を経ているが、都市計画道路にはなっていない。道路の役割としては、市内の地区間を結ぶか市外の都市間を結ぶかの違いがある。 ・現状は代替になりうる路線がないと考えており、藤沢厚木線を検討する必要があると考えている。
・道路ができることで、防災につながるという説明があったが、災害を防ぐのは道路だけではない。	・副次的な効果として考えている。建築基準法の改正など、建築分野の対策と合わさって、効果を発揮するものと考えている。

市民	市
・道路事業の主体は、県、市、どちらか。	・決まっていない。ただし、藤沢厚木線の大半が県道であり、市区画整理事業でも県負担があったことを考えると、県主体の可能性が高いと考えている。
◎費用・財源をどのように考えているのか。 ・計画道路の予算、投資効果はどの程度なのか。 ・これから人口減少が進み、税収が減るのに、誰がこの道路を作る費用を払っていくのか。	・条件パターンが多岐にわたるので、ご意見をいただき、ランクアップを通じて具体的な検討がされてから示すものとする。
・昭和32年に計画した道路なのに、なぜ今必要なのか。誰にどれだけのメリットがあるのか。再度整理すべき。ランクアップの必要はない。 ・昭和32年に都市計画決定されたが、これまでに、今回のような説明がなかった。いきなりランクアップと言われても納得がいかない。 ・なぜ辻堂工区が最後になったのか。	・藤沢厚木線は、北部地域のまちづくりとともに整備してきた経過があり、結果的に辻堂工区が最後になっている。 ・横浜湘南道路ができるので道路網の形成や辻堂駅周辺の交通混雑の緩和をする必要性が高まっていると考えている。 ・昭和の東京オリンピック時期に一度話しをしていると伝え聞いているが、意見交換の場は初めてだと思っている。
・道路によって町内会が分かれてしまい、地域のコミュニティが分断される。 ・小学校の近くの道路となるが、安全性を確保してほしい。 ・道路ができることによって、生活が変わることになるが、未来ある子供たちについての影響はどのように考えているのか。道路によって家がなくなり、転校する子供のことを考えているのか。 ・子どものためにお金を使ってほしい。小学校の老朽化が激しい。 ・立ち退きしなくて済むようにトンネルにしてほしい。	・今後の検討課題としたい。
・アンケートをするとのことだが、アンケートの質問で回答が誘導されることもあるため、公平なアンケートを行ってほしい。 ・市が県に提出する資料は、住民にも周知してほしい。	・広く意見を聞くアンケートを考えている。 ・提出資料は公表予定である。

市民	市
・「かながわみちづくり計画」の整備推進箇所となっている44箇所となっている事業は、どの程度進んでいるのか。 ・事業化検討箇所から整備推進箇所にランクアップしたら、10年の間で工事が進むものなのか。	・すべての箇所が供用できているわけではない。市内の路線では横浜藤沢線はまだである。 ・最短で工事の着手は考えられるが、期限ありきの整備ではないと考えている。
・提供された情報が少なく、意見表明できない。 ・費用、JR横断の方法（橋梁またはトンネル）、道路計画地にある家の補償費などの説明がなく、情報が少ない。これでは判断ができない。 ・立ち退きをするとなると、どういう風に進むものなのか、全国には過去の事例もあると思うので、移転の例を紹介するなど情報提供してほしい。	・具体的な検討やその情報は、整備推進箇所に位置づいてからと考えている。
・市の担当者だけでなく、県の担当者もこのような会議に出席すべき。	・まずは地元自治体として意見を受け止めているが、県へ伝える。

以 上